

金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム

2007年度に始動する当館の新しい事業「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」に向けて、2006年度には調査や準備を行った。6月には、ストックホルム近代美術館ラース・ニッティヴ館長を招き、当館の新事業のモデルとなった十代後半の若者を対象とした教育普及プログラム「ゾーン・モデルナ」の実践と成果についての講演会を開催した。さらに、当館職員がストックホルムへ調査に出かけて当館の活動へのアドバイスを受け、当館にて「ゾーン・モデルナ」をモデルとした事業を開始することへの賛同を得た。

「ゾーン・モデルナ」では、アーティストと参加者、美術教育の専門家、美術館が協同で、展覧会をインスピレーションの源とした活動を行う。当館ではその第一弾として、「我が文明：グレイン・ペリー展」を軸としたワークショップを行い、続く日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式では対象を拡大し、地域を巻きこんだ新たな展開を試みる。

(平林 恵／吉岡恵美子)



Zon Moderna（ゾーン・モデルナ）のワークショップ・スペースにてアイディアを練る高校生たち。今回は、開催中の展覧会「アフリカ・リミックス」の出品作家であるルル・シェリネの指導により、生徒たちが思い思いのテーマでアニメーション作品を制作する。



作家ルル・シェリネに相談したり、助言を求めながら、各々のアイディアを膨らましていく。



ワークショップ・スペースに併設されたコンピュータ・ルームにて、試行錯誤のもと、アニメーションの試作品を制作する。



ストックホルム近代美術館長ラース・ニッティヴ講演会
「芸術と人間形成について：ストックホルム近代美術館の取り組み」



ワークシートを作成する実習生（2005年度）

博物館実習

当館は2005年度より博物館実習を行っている。現代美術館の特質や問題、学芸員の役割を学ぶ実習の実施を目的としているため、実習前には希望学生に「現代美術館の役割」と題するレポートの提出を義務づけ、受入の選考を行っている。講義や実習では、現代美術館やその所蔵作品の特質の考察を行い、コレクションと保存管理、展覧会企画、教育普及活動等における学芸員や教育普及専門員の役割を検証している。また、著作権の取り組みなどといった近現代美術館特有の問題も講義に入れている。実習後には、「実習内容を踏まえて、現代美術館の学芸員の役割」と題するレポートの提出を義務づけ、実習成果の評価を行っている。

(村田大輔)